

4. 郷土の歴史・文化を伝える図書館

<現状と課題>

島根県立図書館は、永きにわたり島根に関する資料や情報を網羅的に収集してきました。これらを活用できる状態に整備し、後世に伝えていくことは、我々の重要な任務です。一方で、当館が扱う郷土資料は、一般に流通する図書や雑誌だけでなく、古文書史料や行政資料、パンフレットや写真、DVD、CD、デジタルデータなど多種多様であり、これらを今後継続して適切に提供していくために、保存計画を検討する時期にきています。市町村や県の公文書センター、竹島資料室、博物館、美術館など関係機関との連携を図りながら、まずは「島根に関する資料の保存と活用」の重要性を、それぞれの役割において共通課題として認識する必要があります。

当館は、地元書店や地域の出版界、市町村図書館、郷土資料モニター、研究者など多くの方の協力を得て、地域の出版物等を収集し保存しています。レファレンスや資料提供を通じて、保存された郷土資料が活用され、新たな地域研究や出版が成り立っており、図書館は地域文化の再生産装置と言えます。引き続き地域出版文化の振興を担っていくためにも、図書館、書店、出版界、各専門機関との連携が重要な課題です。

これまで郷土資料を原則廃棄せず、保存を重視してきましたが、当館の収容力は限界に達しており、早急に対策を検討する必要があります。

<これまでの取組>

郷土資料の収集・保存・提供・活用に関わる事業として、郷土資料モニター、定例文化講座、貴重資料展示、データベースの構築、古文書史料の整理・保存、デジタル化などを継続して行っており、また、レファレンス協同データベースへの事例登録、郷土資料テーマ別資料リストの作成などレファレンス機能の充実を図っています。

各市町村の図書館員や教育委員会担当者を「郷土資料モニター」として委嘱し、それぞれの地域の郷土資料に関する情報交換や状況把握に努めるとともに、出版情報などの収集機能を高めています。近年、今後の連携強化につながることを期待し、市町村の図書館員と文化財担当者、社会教育担当者等が同席して、郷土資料モニター訪問協議を行っています。

古文書史料について、平成23年度に大規模なデジタル化を行い、その後も随時進めています。平成27年度にデジタル化した史料の一部を図書館ホームページで公開しています。

当館が受け継ぐ古文書史料や行政資料等は、地域の歴史資料、文化資源として貴重で

あり、引き続き整理・保存していくとともに、地域の歴史・文化に関わる機関として、これらの提供・活用を進める必要があります。

＜今後の取組＞

（１）郷土資料の収集・保存

書店で入手可能な図書や雑誌のほかに、島根に関わる出版物が多数あるため、郷土資料情報を入手できる体制を堅持し、収集した資料は永続的に利用できるよう、整理し保存していきます。特に保存について、初めて総合的な整理・保存計画を作成します。

○郷土資料の出版・保存に関わる人や団体との連携

- ・市町村、学校、国出先機関、観光案内所など島根に関する出版物を発行している団体に、電話、メール、文書、訪問等により、寄贈及び情報提供を依頼します。
- ・郷土資料モニター制度を活用し、出版・保存に関わる情報を入手します。
- ・書店、出版界と図書館の相互理解と協力推進のため、定期的に意見交換を行います。
- ・資料収集・保存について、博物館、竹島資料室、公文書センター、美術館等と継続的に情報交換を行い、相互理解を深めます。

○網羅的な収集の徹底

- ・通常の出版物の他、島根に関わる小冊子や行政資料、学校関係資料、CD、DVD、子ども対象の資料等を積極的に収集します。
- ・通常の書店の他、古書店、新聞記事、利用者等からの出版情報を活用します。
- ・郷土出身者、郷土ゆかりの人物の著作物を積極的に収集します。

○総合的な整理・保存計画の策定と遂行

- ・現状の施設利用を前提とした郷土資料保存計画（５カ年）を策定します。
- ・計画は、保存すべき郷土資料の現状調査を詳細に行った上で、長期活用されることを前提に方向性を示します。
- ・計画には中長期的な展望も記します。
- ・策定した計画のもと、史料のデジタル化と、整理・保存を進めます。

(2) 郷土資料の提供・活用

郷土資料へのアクセス向上を目指し、図書館情報システムで、郷土雑誌記事や図書内容も検索できるよう引き続き整備するとともに、デジタルアーカイブの改良、各種目録や索引・所蔵リストなど二次資料の利活用を図ります。

○島根に関する資料・情報へのアクセス向上

- ・古文書類など図書館情報システムでは検索できない資料へのアクセスを容易にするため、郷土資料に関わる二次資料を再点検し、ホームページに掲載します。
- ・博物館など他機関の展覧会へ当館所蔵資料を出展協力する際や、当館で講演会、企画展示を行う際に、出品資料の紹介をホームページに掲載します。
- ・郷土資料の内容・記事検索や郷土人物の検索、新聞記事検索などホームページのコンテンツを充実させます。

○デジタルアーカイブの活用

- ・原則公開を前提とし、利用者向け機能を充実させたデジタルアーカイブ(現「しまねデジタル百科」の再構築)を整備します。
- ・デジタルアーカイブの運用について、古代出雲歴史博物館、公文書センター、美術館等との情報交換を行います。

○各種地域団体などの出版物の活用

- ・県の機関が刊行する年報類の目次をリスト化し、ホームページに掲載します。
- ・学校記念誌等を、市町村別、学校別にリスト化し、ホームページに掲載します。
- ・観光案内パンフレット、社寺の由緒書、施設紹介パンフレット等を、地域別、市町村別にリスト化し、ホームページに掲載します。

○本物に触れる機会の提供

- ・古絵図、書状など島根の歴史を語る貴重資料を館内で展示します。
- ・古文書講座など島根の歴史・文化を学ぶ機会を提供します。

(3) 郷土レファレンスの充実

地域研究や出版を行っている研究者や専門機関等と情報交換を行い、郷土レファレンスの精度や効率を高めていきます。またレファレンス協同データベースへのデータ蓄積や二次資料の作成・公開を引き続き行っていきます。

○郷土の歴史・文化等に詳しい研究者や団体との連携

- ・ 古代出雲歴史博物館、竹島資料室、公文書センター、美術館、大学図書館、市町村図書館などが作成したデータベースや所蔵リストなどを活用してレファレンスを行います。
- ・ 郷土レファレンスの調査方法や情報源などについて、上記の各機関や当館を利用する研究者等と情報交換を行います。

○レファレンス協同データベースや二次資料の充実

- ・ レファレンス協同データベースに当館の郷土レファレンス事例を蓄積、公開します。
- ・ ニーズに基づいた二次資料の作成や改訂を行い、ホームページに公開することで、研究者等の便宜を図ります。